

平成17年度病害虫発生予報第10号

平成17年12月1日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区 分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
野 菜	ラッキョウ	白色疫病	やや早い	平年並
	イチゴ	うどんこ病 灰色かび病	平年並 平年並	やや少ない 平年並

気象予報 (抜粋)

1か月予報(11月26日～12月25日:11月25日、広島地方気象台発表)
向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量と日照時間は平年並でしょう。

<可能性の大きな気温経過>

期 間	平均気温
11月26日～12月2日	平年並
12月3日～9日	低い
12月10日～23日	平年並

野 菜

[ラッキョウ]

1 白色疫病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在、本病の発生はみられていない。

イ 本病は低温期の連続降雨や積雪により発病が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう3か月の平均気温は平年並か高く、降水量は平年並が多いと予想されており、本病の発生が多くなるのは、平年に比べやや早い2月中旬頃、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤防除は、発病前の10月、11月、12月の毎月1回の予防散布が効果的である。12月中旬～下旬にはリドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液、カーゼートPZ水和剤600倍液のいずれかを散布する。

イ 1～2月に降雨が続く場合および雪解け時に、リドミルMZ水和剤500倍液、フロンサイド水和剤1,000倍液等を散布する。

ウ 前年に発生が多かったほ場では、土壌中の病原菌密度は高いと考えられるので、圃場の排水対策とともに、年内の薬剤防除を徹底する。

エ 薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準を遵守する。

[イチゴ]

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 夏期が高温で推移したため、11月下旬現在の本ぼにおける発生量はやや少ない。
イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されており、やや少ない発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 罹病性品種では、発病後の完全な防除は難しいので、予防防除に重点を置く。
イ 薬剤は、表1を参考にC群の硫黄くん煙剤（サルファグレン）、または、G群の薬剤を選択して使用する。
ウ すでに本ぼで発生しているほ場では、表1を参考にA群、B群+E群の混用、D群、ジーファイン水和剤+F群の混用、E群の各薬剤を7日間隔で散布後、C群の薬剤を処理する。灰色かび病の発生がみられるときは、G群、H群の薬剤を散布する。
エ 薬剤防除は、葉の裏や芽の間にも薬液が付着するように、丁寧に散布する。
オ なお、薬剤の使用に当たっては、A群、B群の同一群内の薬剤及び同一薬剤の連用は避ける。また、A群は、浸透性を高める効果のある展着剤を加用すると、薬害が発生する場合がありますので加用しない。ジーファイン水和剤は低温期には使用しない。
カ 薬剤の使用にあたっては、農薬使用基準を遵守する。

表1 イチゴうどんこ病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	商品名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	ストロベリン系（予、治）	アミスター-2070アブル	1,500～2,000倍	3	前日
		ストロベリン-70アブル	3,000～5,000倍	3	前日
B	E B I 剤（予、治）	サルバトレME	2,000～3,000倍	3	前日
		トリ水和剤	4,000～8,000倍	3	前日
		ルビゲン水和剤	4,000倍	3	前日
		ルビゲンくん煙剤	40g/200m ³		前日
		ハイコラル水和剤	5,000倍	3	前日
		トリフィン水和剤	3,000～5,000倍	5	前日
		トリフィンジェット	50g/400m ³		前日
		ハンチョTF顆粒水和剤	2,000倍	2	前日
C	水和硫黄剤（予、治）	サルファゾル	500～1,000倍	4	-
		クムラス	500～1,000倍	-	-
	硫黄くん煙剤（予、治）	サルファグレン	10g/100m ³	-	-
D	キノキサリン系（予、治）	モルスタン水和剤	3,000～4,000倍	2	前日
E	炭酸水素カリウム（治）	カリグリーン	800～1,000倍	8	前日
	炭酸水素ナトリウム（治）	ハーモイト水溶剤	800～1,000倍	8	前日
	炭酸水素ナトリウム・銅（予、治）	ジーファイン水和剤	750～1,000倍	6	前日

F	脂肪酸グリセト [®] （治）	サンクリスタル乳剤	300倍	6	前日
G	D B E D C 剤（予）	サンヨール	500～1,000倍	6	前日
H	アニリル [®] リミジン系（予）	フルビ [®] カフロア [®] フル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビ [®] かくん煙剤	50g/500m ³		前日
	グアジ [®] ニン系（予）	ベルコート水和剤	4,000倍	2	前日

注）表中の予は予防主体、治は治療効果が期待できる薬剤であることを示す。

2 灰色かび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 11月下旬現在の発生量はやや少ないため、発生が多くなるのは平年並の3～4月頃と予想される。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年並か低く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枯葉や病果は早めに除去する。

イ ハウス内が20 前後で多湿になると多発しやすいので、随時、通風換気を行い、必要以上の灌水は避ける。

ウ 薬剤防除は、表2の薬剤を参考にA群、B群の薬剤を予防散布する。その後、C群、D群の各薬剤を7～10日間隔で輪番散布する。

エ なお、薬剤の使用に当たっては、耐性菌の発達しやすいC群内の薬剤の輪番処理および同一薬剤の連用は避ける。

表2 イチゴ灰色かび病の主要防除薬剤

薬剤群	種類	商品名	希釈倍数・使用量	使用回数	収穫前日数
A	D B E D C 剤	サンヨール乳剤	500倍	6	前日
B	アニリル [®] リミジン系	フルビ [®] カフロア [®] フル	2,000～3,000倍	3	前日
		フルビ [®] かくん煙剤	50g/500m ³		前日
		スカーラフロア [®] フル	1,000倍	2	前日
C	ジカホ [®] キシミド [®] 系	ロフ [®] ラル水和剤	1,500倍	4	前日
		ロフ [®] ラルくん煙剤	100g/300～400m ³		前日
		スミレックス水和剤	2,000倍	3	前日
		スミレックスくん煙顆粒	6g/100m ³		前日
D	フェニル [®] ロール系	セバ [®] アフロア [®] フル20	1,000～1,500倍	3	前日
	フェニル [®] ロール系・ヒト [®] ロキシアニリト [®] 系	ジ [®] ヤストミト顆粒水和剤	2,000～3,000倍	3	前日
	グアジ [®] ニン系・ヒト [®] ロキシアニリト [®] 系	タ [®] イミジン	2,000倍	2	前日

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : byogaichu@pref.tottori.jp 又は kttr0301@sp.jppn.ne.jp

次回の予報発表は、平成18年2月2日(木)の予定です。